

平成30年(2018年)

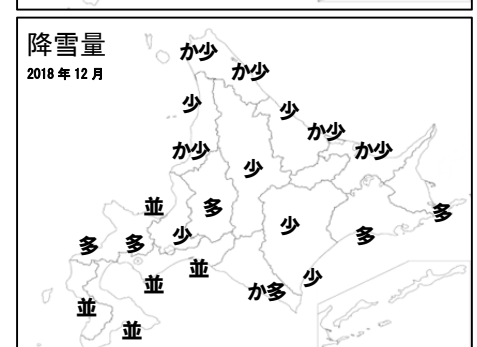
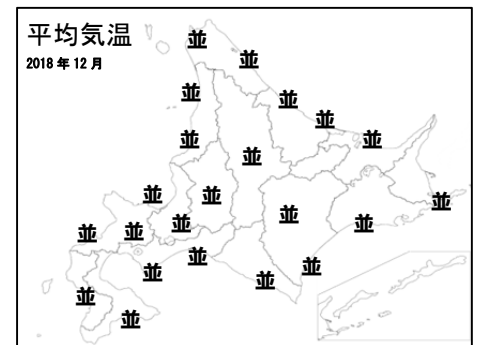
札幌管区気象台 気象防災部
地球環境・海洋課
(2019年1月4日)

北海道地方 12月の天候

気候表 (データは速報値であり、後日変更される場合があります)

官署名	本年			平年差・平年比			降雪の 深さ合計 cm	月最深 積雪 cm
	気温 ℃	降水量 mm	日照時間 h	気温 ℃	降水量 %	日照時間 %		
稚内	-2.0	72.0	20.6	0.0	64	68	73	20
北見枝幸	-3.2	76.5	51.6	-0.2	72	70	115	42
羽幌	-1.1	171.0	21.6	+0.5	125	61	142	52
雄武	-3.2	37.0	86.7	0.0	62	95	70	24
留萌	-1.0	77.5	21.7	+0.5	66	67	101	27
旭川	-3.6	93.0	44.0	+0.7	96	73	158	57
網走	-2.4	62.5	131.3	0.0	105	114	44	25
小樽	-1.2	143.5	62.4	-0.2	101	98	147	50
札幌	-1.0	86.5	75.8	-0.1	77	88	106	31
岩見沢	-2.6	175.5	42.7	-0.1	142	59	235	85
帯広	-3.3	31.0	183.9	+0.4	67	107	34	23
釧路	-1.7	34.5	177.5	+0.2	68	102	43	30
根室	-0.6	56.5	166.2	-0.1	112	114	66	30
寿都	-0.3	168.5	20.5	-0.2	140	70	149	38
室蘭	0.6	57.5	64.9	+0.1	89	87	34	13
苫小牧	-1.2	42.5	124.5	-0.1	83	99	26	12
浦河	-0.3	79.0	122.5	-0.5	156	107	82	21
江差	1.5	120.0	25.5	-0.2	122	72	58	21
函館	-0.3	91.5	87.1	-0.3	108	94	95	22
倶知安	-2.8	256.0	30.7	+0.3	137	73	310	124
紋別	-2.2	34.0	100.9	+0.3	64	103	46	15
広尾	-1.1	41.5	161.2	+0.2	49	110	55	28

階級分布図



注「) 」付きの値は欠測を含む。「] 」付きの値は一定の割合以上の欠測を含む。
「×」は欠測を示す。

(気温は平年差(℃)、降水量・日照時間・降雪量は比(%)を示す)

	気温	階級	降水量	階級	日照時間	階級	降雪量	階級
北海道22地点平均	+0.1	並	96	並	88	少	98	並
日本海側10地点平均	+0.1	並	107	並	73	か少	89	少
オホーツク海側4地点平均	0.0	並	76	少	96	並	57	か少
太平洋側8地点平均	0.0	並	92	並	103	並	130	多

月統計値の記録 (第3位まで)

(詳細は、最終ページの表を参照してください。)

月降水量 (少ない) 第3位 留萌
月間日照時間 (少ない) 第2位 岩見沢
降雪の深さ月合計値 (多い) 第1位 浦河
第2位 根室

階級は、概ね「高(多)」、「並」、「低(少)」の3段階に分けています。
各階級の幅は、平年値の作成期間(1981年~2010年の30年間)における各階級の出現率が1:1:1となるように決めてあります。
また、平年値作成期間内の上位、下位10%の範囲に入る場合は「か高(多)」、「か低(少)」(か→かなり)で表します。

— 『並温・並雨（並雪）・寡照』 上旬は寒暖差大きくなるも、月の気温は平年並 —

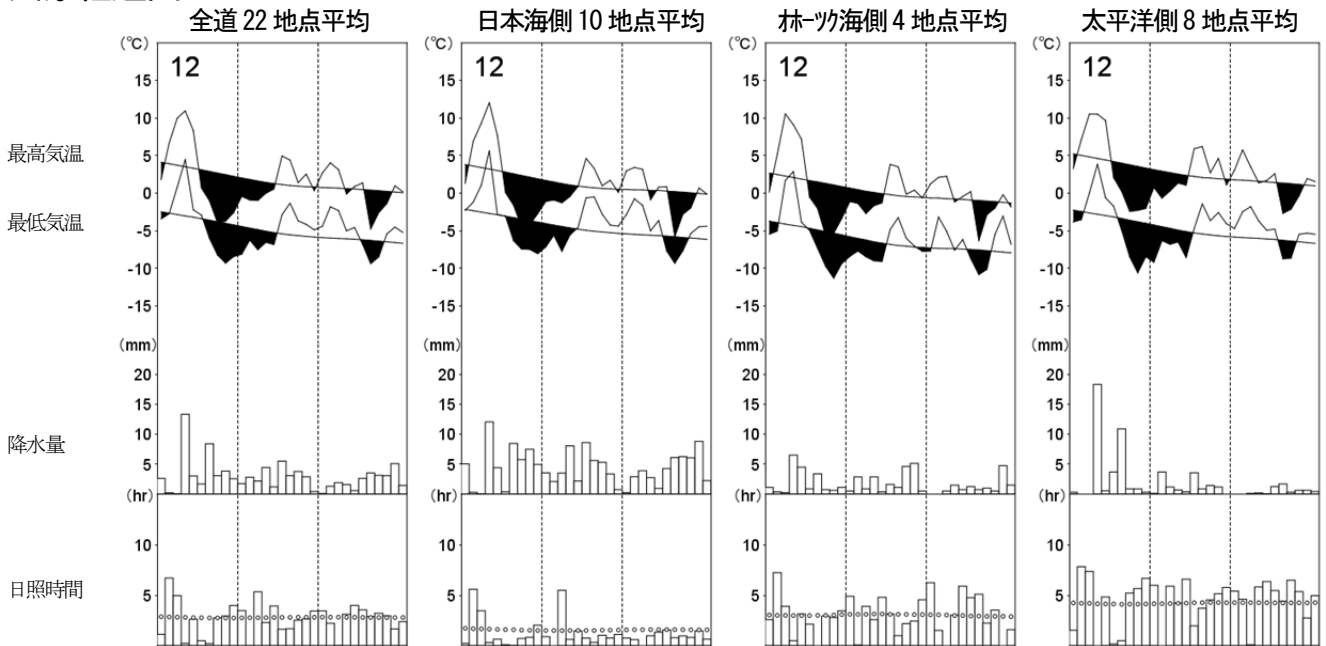
この期間の天気は、冬型の気圧配置や気圧の谷の影響で日本海側を中心に雪の降った日が多かったが、オホーツク海側南部や太平洋側東部では晴れた日が多かった。気温はいずれの旬も平年並で、月平均気温も平年並だった。降水量は上旬は平年より多かったが、下旬は少なく、月降水量は平年並だった。日照時間は下旬は平年より少なく、月間日照時間も少なかった。降雪量は上旬は平年より多かったが、下旬はかなり少なく、月降雪量は平年並だった。

上旬:1日は低気圧を含む気圧の谷が通過して雪の降った所が多かった。2日は高気圧に覆われて広い範囲で晴れた。3日は高気圧の張り出しの中となって太平洋側を中心に晴れたが、気圧の谷の影響で日本海側北部では雪や雨の降った所があった。4日は前線を伴った低気圧の影響で全道的に雨や雪が降った。5日は冬型の気圧配置となって日本海側やオホーツク海側北部を中心に雪や雨の降った所が多かったが、オホーツク海側南部や太平洋側では晴れた所も多かった。6日は冬型の気圧配置や低気圧の接近に伴い雪の降った所が多かった。7日は低気圧の通過やその後の冬型の気圧配置により全道的に雪が降った。8～10日は冬型の気圧配置となって日本海側を中心に雪が降ったが、オホーツク海側南部や太平洋側では晴れた所が多かった。

中旬:11日は高気圧の張り出しの中となってオホーツク海側や太平洋側では晴れた所が多かったが、気圧の谷の影響により日本海側では雪の降った所が多かった。12日は低気圧を含む気圧の谷の影響で全道的に雪が降った。13日は弱い冬型の気圧配置となって晴れた所が多かったが、低気圧を含む気圧の谷の影響で雪の降った所もあった。14日は冬型の気圧配置となって日本海側やオホーツク海側を中心に雪が降ったが、太平洋側では晴れた所もあった。15日は冬型の気圧配置となって日本海側を中心に雪が降ったが、オホーツク海側南部や太平洋側東部では概ね晴れた。16日は低気圧を含む気圧の谷が接近し、日本海側や太平洋側西部を中心に雪や雨が降ったが、オホーツク海側南部や太平洋側東部では晴れた所もあった。17日は低気圧を含む気圧の谷が通過し、日本海側や太平洋側西部を中心に雪や雨が降ったが、太平洋側東部では概ね晴れた。18～20日は冬型の気圧配置となって日本海側やオホーツク海側北部を中心に雪が降ったが、オホーツク海側南部や太平洋側東部では概ね晴れた。日降雪量は18日に美唄で45cmなど。

下旬:21日は冬型の気圧配置が緩んでオホーツク海側や太平洋側東部では概ね晴れた。22日は低気圧を含む気圧の谷の影響で日本海側を中心に雪や雨が降ったが、太平洋側東部では概ね晴れた。23日は気圧の谷が通過して全道的に曇り、日本海側を中心に雪や雨が降った。24～25日は冬型の気圧配置や気圧の谷の影響で日本海側を中心に雪が降ったが、オホーツク海側や太平洋側では晴れた所が多かった。26日は気圧の谷の通過とその後の冬型の気圧配置により、日本海側や太平洋側西部で雪が降ったが、オホーツク海側南部や太平洋側東部では概ね晴れた。27～29日は冬型の気圧配置となって日本海側を中心に雪が降ったが、オホーツク海側南部や太平洋側東部では概ね晴れた。日降雪量は夕張市鹿の谷で28日に45cm、29日に54cmなど。30日は冬型の気圧配置となって広い範囲で雪が降った。日降雪量は羅臼で45cmなど。31日は冬型の気圧配置となって日本海側やオホーツク海側で雪の降った所があったが、太平洋側では晴れた所もあった。

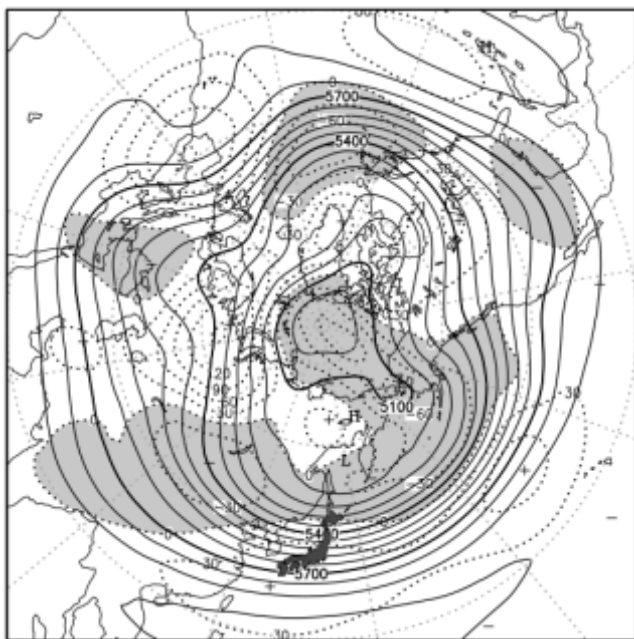
気象経過図



旬別気候表 (気温は平年差(℃)、降水量と日照時間は平年比(%)を示す)

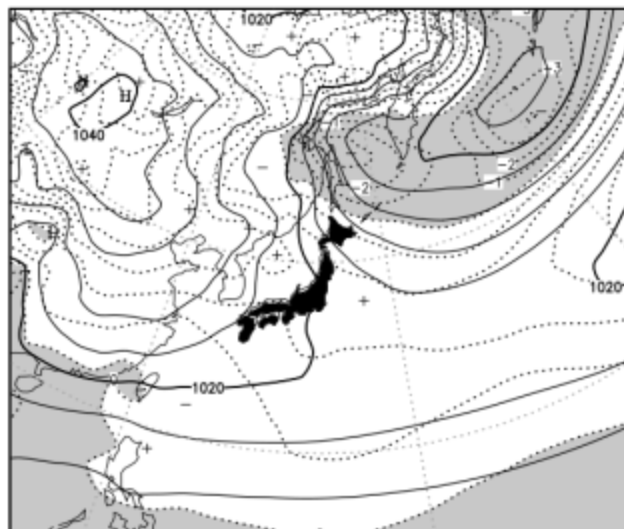
	北海道全域			日本海側			オホーツク海側			太平洋側		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
気温	-0.6 並	+0.5 並	+0.3 並	-0.5 並	+0.7 並	+0.2 並	-0.5 並	+0.5 並	+0.3 並	-0.7 並	+0.3 並	+0.4 並
降水	136 多	88 並	64 少	122 多	100 並	103 並	84 並	94 並	52 少	179 多	72 並	22 少
日照	89 並	93 並	82 少	82 並	86 並	53 少	92 並	93 並	102 並	97 少	101 並	108 並

12月の大気の流れ（北半球の平均天気図の特徴）



12月の500hPa天気図

実線：等高度線（m）、点線：高度の年平均偏差（m）
 陰影部は、平年より高度の低い負偏差の領域を示す。この領域では平年より気温が低い傾向がある。
 日本の上空では、風は等高度線に沿って西から東に吹いている。等高度線が南北に波打っている状態は偏西風が蛇行していることを、等高度線の間隔が狭い所では偏西風が強いことを示す。



12月の地上天気図

実線：等圧線（hPa）、点線：気圧の年平均偏差（hPa）
 陰影部は、平年より気圧が低いことを示す。この領域では、平年より気圧の谷や低気圧の影響を受けやすい。

・500hPa（上空約5500m）天気図

本州以南は弱い正偏差となり暖かい空気に覆われやすかったが、北海道付近は負偏差となり、寒気の影響を受ける時期があった。

・地上天気図

シベリア高気圧は平年より勢力が強かった。アリューシャン低気圧も中心付近からオホーツク海付近では平年並から強く、北海道付近では冬型の気圧配置が強まる時期があった。

北海道上空の気温経過

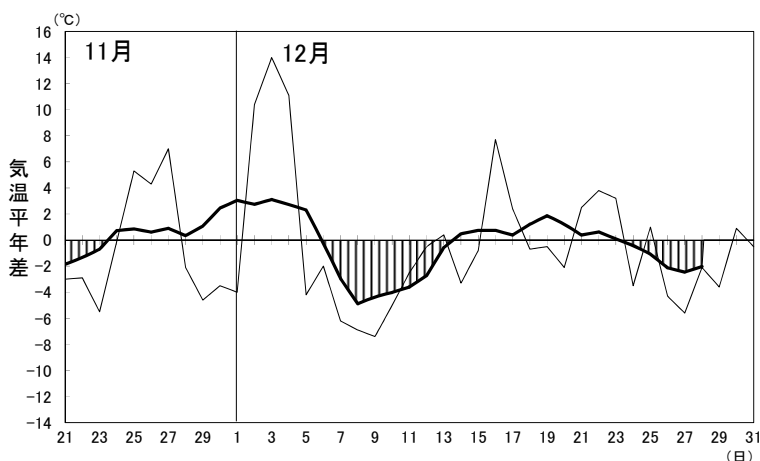
12月の札幌における850hPaの気温平年差

・7日移動平均（太線）

平年を上回る時期と下回る時期が交互に現れた。

・日別値（細線）

上旬は平年を大きく上回る日や下回る日があったが、その後は短い周期で気温が変動した。



11月下旬から12月の札幌における850hPa(上空約1500m)気温平年差
 (細線：日別、太線：7日移動平均、陰影線：7日移動平均の負偏差)

月統計値の記録の詳細（第3位まで）

期間	要素	順位	地点	本年	平年差(比)	これまでの1位(年)	統計開始年
12月	月降水量 (少ない)	第3位	留萌	77.5 mm	66 %	67.5 (1995)	1943
	月間日照時間 (少ない)	第2位	岩見沢	42.7 h	59 %	40.3 (1977)	1946
	降雪の深さ月合計値 (多い)	第1位	浦河	82 cm	256 %	70 (2005)	1953
		第2位	根室	66 cm	183 %	75 (2005)	1953

お問い合わせ先

札幌管区気象台気象防災部 地球環境・海洋課
TEL (011) 611-6174